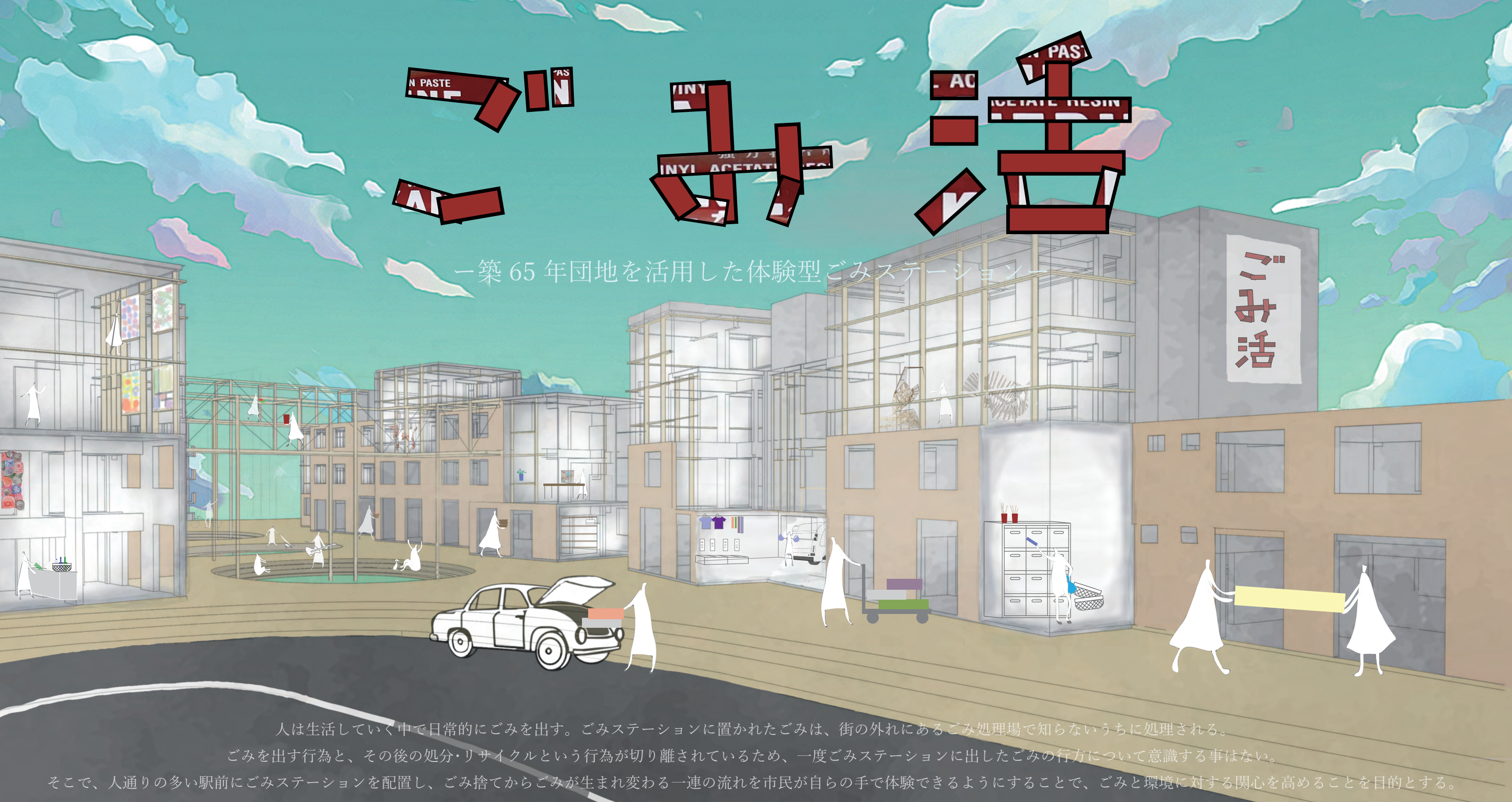




一築 65 年団地を活用した体験型ごみステーション

人は生活していく中で日常的にごみを出す。ごみステーションに置かれたごみは、街の外れにあるごみ処理場で知らないうちに処理される。

ごみを出す行為と、その後の処分・リサイクルという行為が切り離されているため、一度ごみステーションに出したごみの行方について意識する事はない。

そこで、人通りの多い駅前にごみステーションを配置し、ごみ捨てからごみが生まれ変わる一連の流れを市民が自らの手で体験できるようにすることで、ごみと環境に対する関心を高めることを目的とする。

ごみ活とは

体験型ごみステーションにおける体験の総称。

- 「ごみ活動」・・・分別等業者が担うごみ処理過程の一部を体験。
- 「ごみ活用」・・・収集したごみを活用し、創作活動を行う。
- 「ごみ活学」・・・ごみについての学びを発展させ、実践に活かす。

ごみ活

動

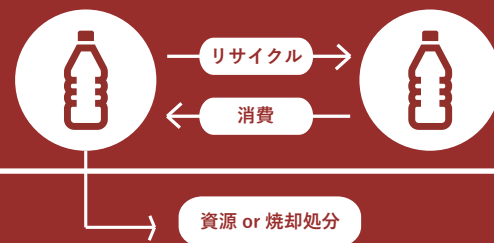
用

学

目的・予想される効果

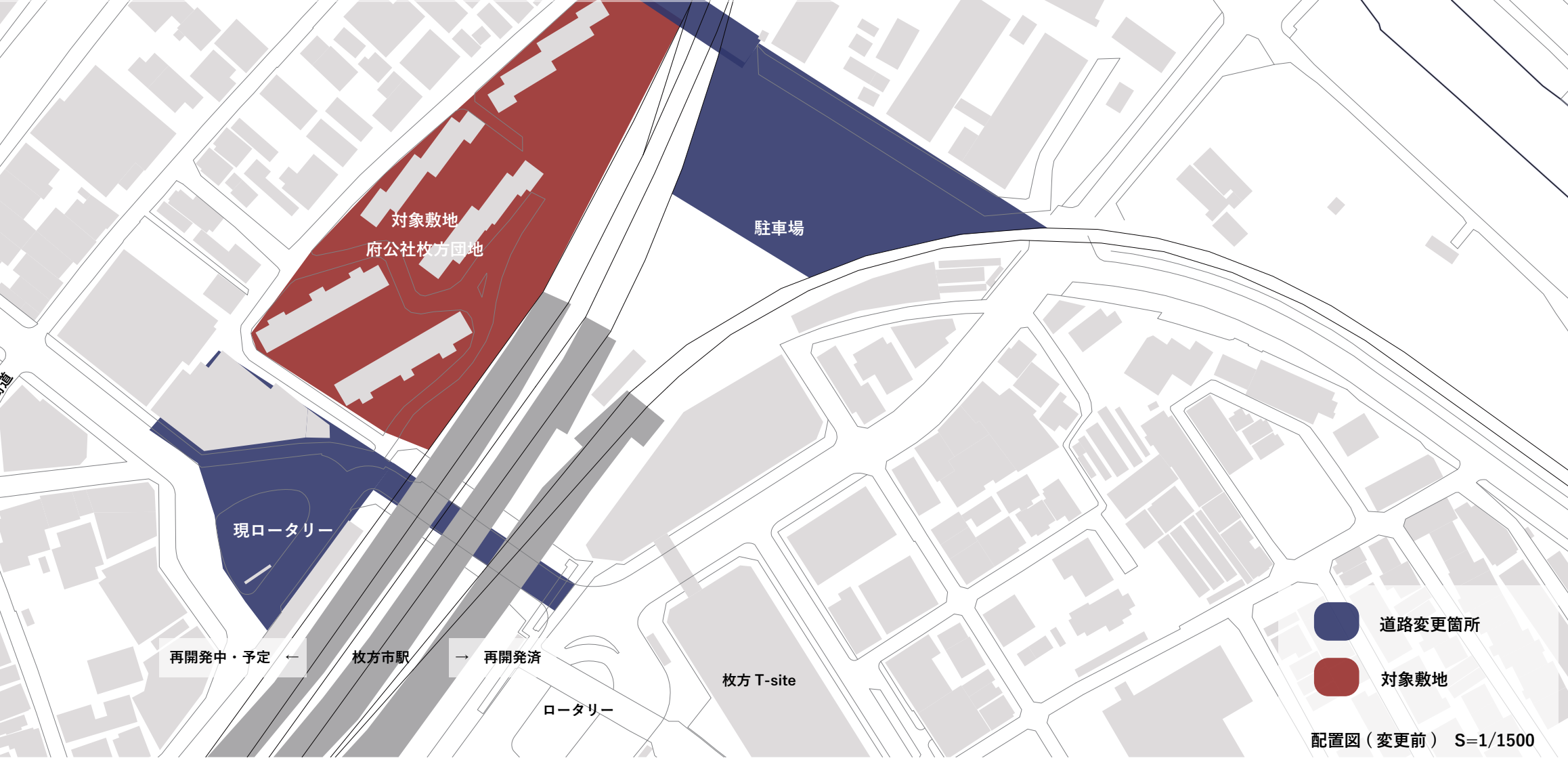
- ごみ活の体験がリサイクル活動を加速させる
 - 処理過程の一部を担うことでごみに関心と責任をもつ
- リサイクル効率の向上（右図）
 - 資源になる前に繰り返し使える状態の良いごみを出す
- 非常事態に強いまちづくり
 - 日常動作を共有し居合わせることで顔なじみができる

現状水平リサイクル率は 1 ～ 2 割



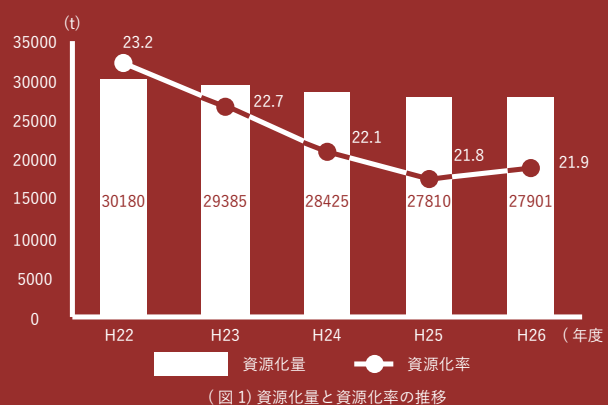
敷地情報と要旨

住所：〒573-1191 大阪府枚方市新町 1 丁目 1 - 1 府公社枚方団地（現在解体中）
敷地面積：7,287.87 m²
構造・構成：RC 造、地上 4 階建て 5 棟 120 戸（元の団地）
用途：住宅団地 → 体験型リサイクルごみステーション



1. ごみの資源化率が減少傾向

市の目標資源化率 40% に対し現在の資源化率は 20% 前後となっている。資源化率は減少傾向であり、資源化量も伸び悩んでいる。



2. 混雑する駅前ロータリー

枚方市駅はバス利用者が 4000 人 / 日と市で一番多く、駅利用者数も大阪で 3 番目に多い。そのため駅前には多数の車とバスで混雑しており、歩行者が安心できる場所がない。



1. 保存と開発の両方を行っている

以下のような保存と開発を行っている。
歴史街道が保存される一方で、それ以外は刷新され続け、景観の衝突や、なじみの風景・関係の喪失が起きている。

保存

枚方宿保存
歴史街道保存
くらわんか文化の復興（五六市）

開発

市街地再開発（昭和 40 ～ 50）
駅前再開発（現在進行中）
商業施設（枚方 T-site）

2. 市が廃棄物削減に取り組んでいる

枚方市は廃棄物削減に向けて市が独自の活動を行っている。環境問題に意識を向け始めた。

活動事例

環境フェスタごみ減量フェア
食べのこサンデー
生ゴミ堆肥化講習



3. 手作り・ものづくり文化がある

「趣向を凝らして人をもてなす」という枚方市の文化にちなんで五六市という手作り市が毎月開催される等、ものづくり文化が根付くまち。



敷地特徴

課題

3. ごみの分別種類が少ない

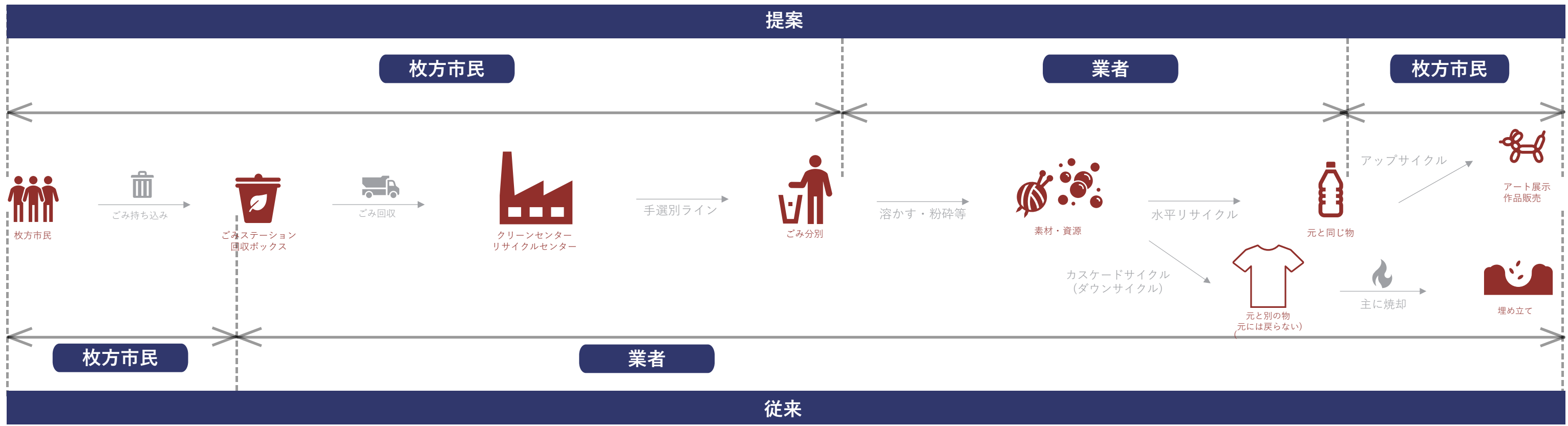
枚方市では、ごみの分別を行っているもののその種類は 4 種類と少ない。（最多の地域は 45 種類）ごみの分別種類の少なさと便利さがごみへの関心を下げ、資源化率減少の原因の一つになっていると考えられる。

- 一般ごみ
- PET、プラ製容器包装
- 空き缶、びん、ガラス類
- 紙類

(図 2) 枚方市のごみ分別種類（粗大ごみ等直接持ち込みの物を除く）
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000010/10757/wake2.pdf>

プログラム

これまで業者が担っていた細かいごみの分別を枚方市民が行うことで、リサイクルの効率化と、1人1人のごみ削減意識の向上を図る。加えて、リサイクルされたものを利用し、ワークショップや地域アーティストを通してごみをアートに変えるアップサイクルを行う。作品を通して「ひらかた夢工房」（まちの外れの清掃工場で日用品の修理や加工を行う団体）等、ローカルアーティストの活動をアピールする機会ともなる。



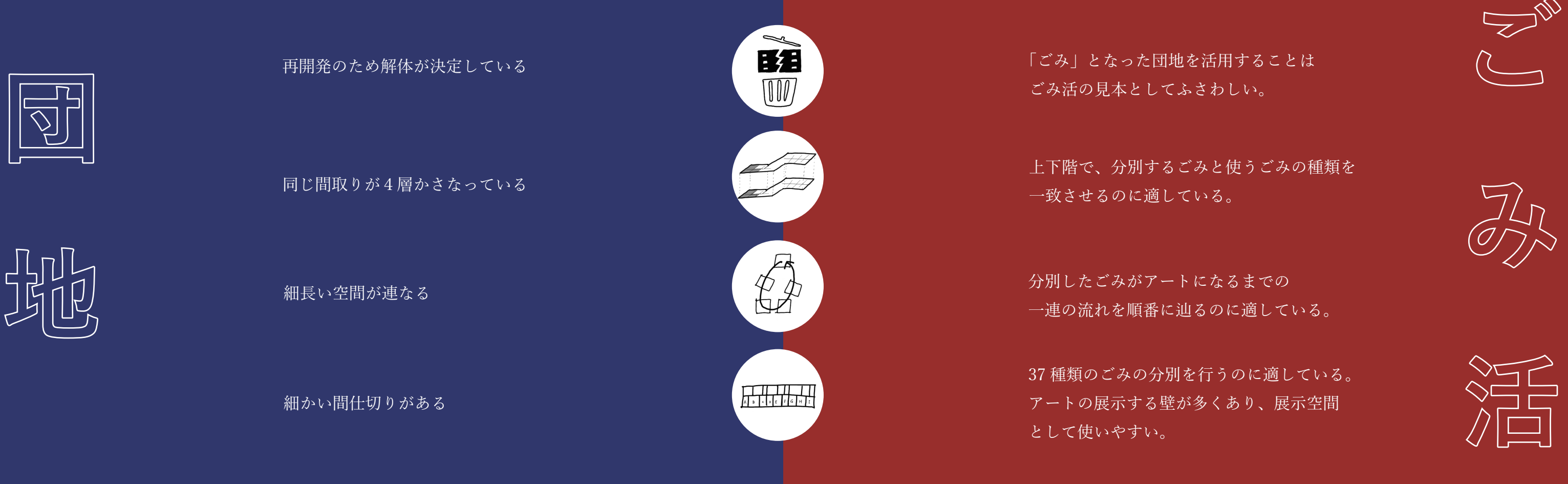
集めるごみの分類

ごみの持ち込みは枚方市民のみ可。生ゴミや、おむつ・トイレットペーパー等の燃やさなければならないゴミ以外のごみを分別回収する。分別は下記の9種類37分別とする。

金属類 - アルミ缶 - スチール缶 - スプレー缶 - 金属製キャップ - 雑金属	紙類 - 新聞・チラシ - 段ボール - 雑誌・雑紙 - 白色紙パック - 銀色紙パック - 白色紙カップ - 紙芯 - シュレッダーくず - その他紙	びん類 - 透明びん - 茶色びん - その他びん - 一升瓶、ビール瓶	布類 - 衣類・毛布 - その他布	プラスチック類 - プラ製容器包装 - その他プラスチック - 白トレイ - ペットボトル - プラスチックキャップ
危険物類 - 陶磁器・ガラス - 鏡・水銀体温計 - 電球、蛍光灯 - 乾電池 - 廃バッテリー - ライター	粗大ごみ - 金属製 - 木製 - 布団、絨毯類、畳 - 塩ビ製品、ゴム製品	バイオマス類 割り箸、木・竹製品	不要品類 まだ使えるもの	推定ごみ量 (1週間) <家庭系ごみ> - 資源化ごみ 26t - 粗大ごみ 17t

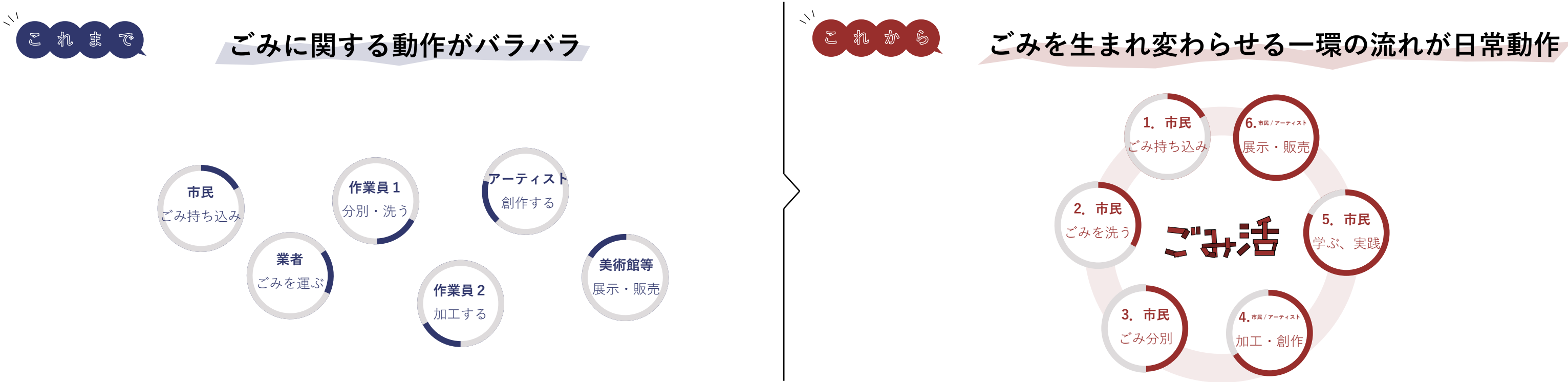
団地活用とごみ活の共通点

ごみ活を枚方団地で行うことの利点を以下に記す。



ダイアグラム

設計手法を以下に図式化する。これまで、ごみ出しからごみが生まれ変わるまでがバラバラに扱われてきたが、ごみ活では、ごみがアートになるまでを一連の流れとして捉え、連続的なルートを構成する。そうすることで、ごみを分別し生まれ変わらせるまでの流れをひとつの日常動作として認識するようになる。



02

ごみを持ち込もう

各家庭で出た、ごみ活持ち込み用のごみを持ち込む。団地側のロータリー・自動車専用で、おおきいごみを降ろす際に一時駐車できるスペースがある。車ロータリーとバス・タクシーロータリーを分離したことで、交通混雑の緩和を図る。

01

持ち込みごみを準備しよう

各家庭でごみ活に持ち込むごみと持ち込めないごみの2つに分類しておく。生ゴミやおむつなど臭いの発生する持ち込めないごみは、これまで通り最寄りのごみステーションに出し、持ち込み可能ごみはまとめてごみ活に持ち込む。

10

アートを展示・販売してみよう

アートサイクル棟の4階は一般展示スペースであり、工房でつくった作品に限り、誰でも展示可能である。展示は場所予約制で、展示場所がすべて埋まった場合、展示販売期間は1週間とし、新しい作品と入れ替える。アートを展示するハードルが低く、挑戦しやすい。

03

おおきいごみを分別しよう

木製粗大ごみ、金属製粗大ごみなど、家庭ででたおおきいごみを分別する。おおきいごみ棟のすぐ隣にロータリーがあるので運搬も楽に行える。分別は床にごみの種類の表示とルートが書かれているため誰でも簡単に分別することができる。

04

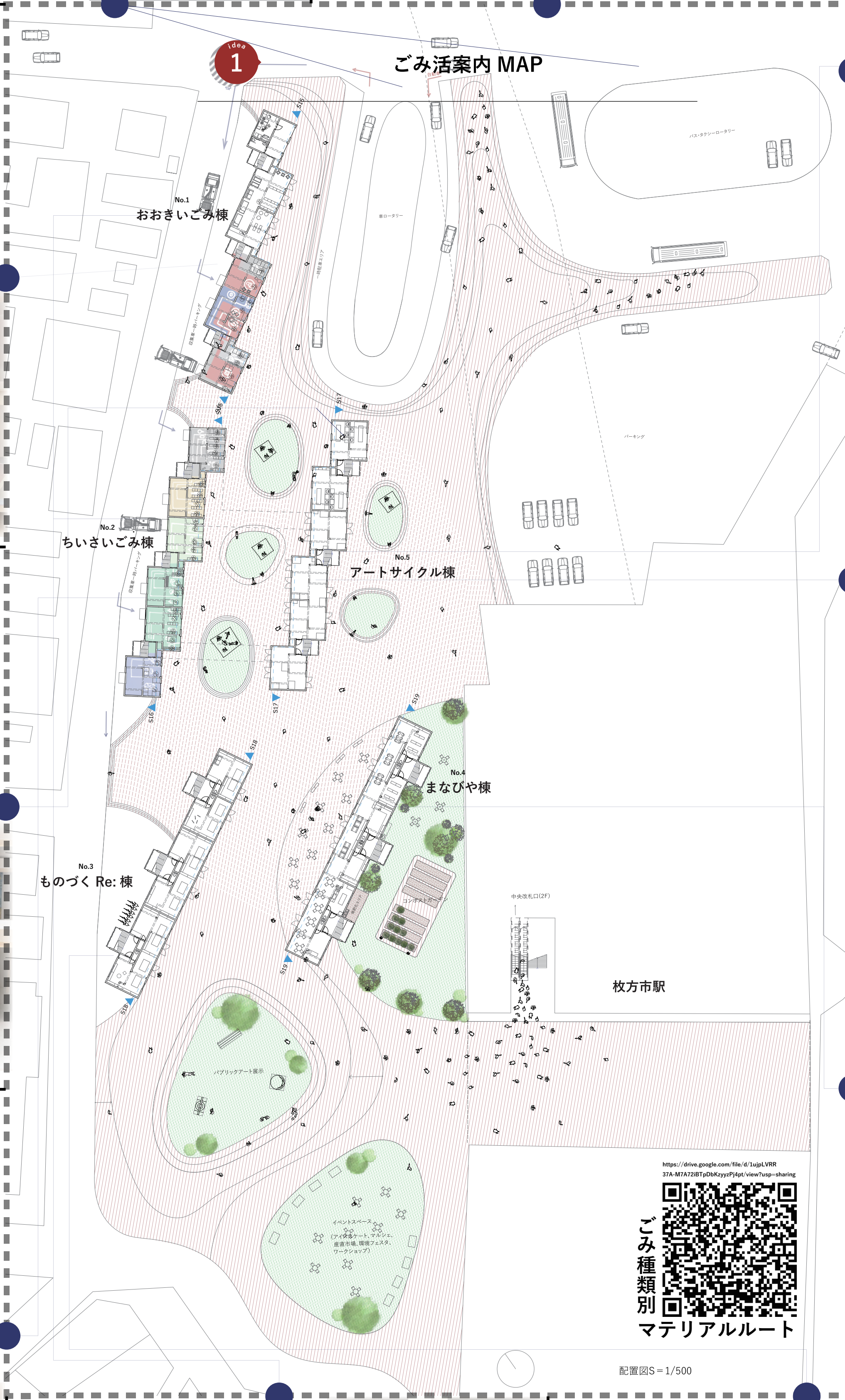
ごみを洗おう

ちいさいごみを分別する前に、ペットボトルやびんなど、汚れているごみを洗う。アートサイクル棟にあるクリーニングルームごみアートをしながらごみを洗う。ごみがアートになる最終目標を見ることでごみ活意欲を向上させ、洗う行為を楽しむ。

05

ちいさいごみを分別しよう

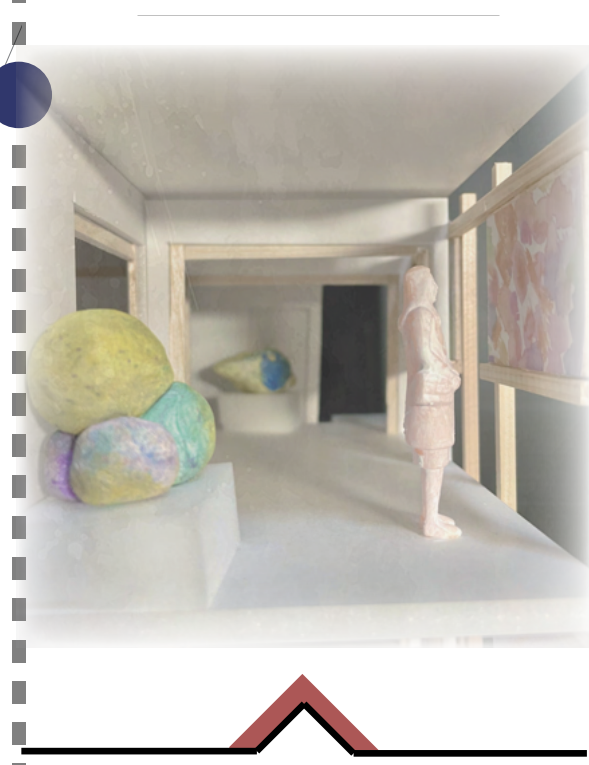
綺麗に洗った小さいごみをちいさいごみ棟で分別する。おおきいごみ同様、床にごみの種類とルートが書いてあるので簡単に分別可能。元の団地の1つ1つの部屋が、ごみを分別するための部屋になっている。



09

ごみアートを見学しよう

ものづく Re: 棟のローカルアーティストによる作品をアートサイクル棟で見学できる。アートはすべて分別されたごみからつくられているアップサイクルアートである。気に入った作品をアーティストから購入することもできる。



08

ごみを研究し体験しよう

まなびや棟にあるライブラリではごみに関する本が読み放題。また、もらわんかライブラリではブックリユースを行っており、いらない本をおいたり、欲しい本をもらって体験ができる。その他、廃棄食材を扱う hai カフェででた生ごみを堆肥化して食材の肥料にする堆肥化体験や、古着のリユース、ごみアーティストの公演鑑賞等の多様な体験ができる。



06

ごみアートをつくろう

おおきいごみ棟、ちいさいごみ棟の2～4階はごみを分別すると無料でつかえる市民工房になっている。(分別しない市民、市民以外は時間予約制で有料)1階で分別したごみの部屋の位置と、そのごみを使う工房の場所は高さ方向に連続しているため、どのごみをつかう工房か内外かがひと目で分かる。

07

ローカルアーティストを知ろう

ものづく Re: 棟では、ローカルアーティストが住みこみでアートを製作している様子を見学できる。多く人に見てもらえる場所で活動することで、アーティストの製作意欲向上だけでなく、駅利用者とアーティストの交流機会の創出も期待できる。市民も地元で活躍するアーティストのことを知ったり、プロのアートを学ぶ機会になる。

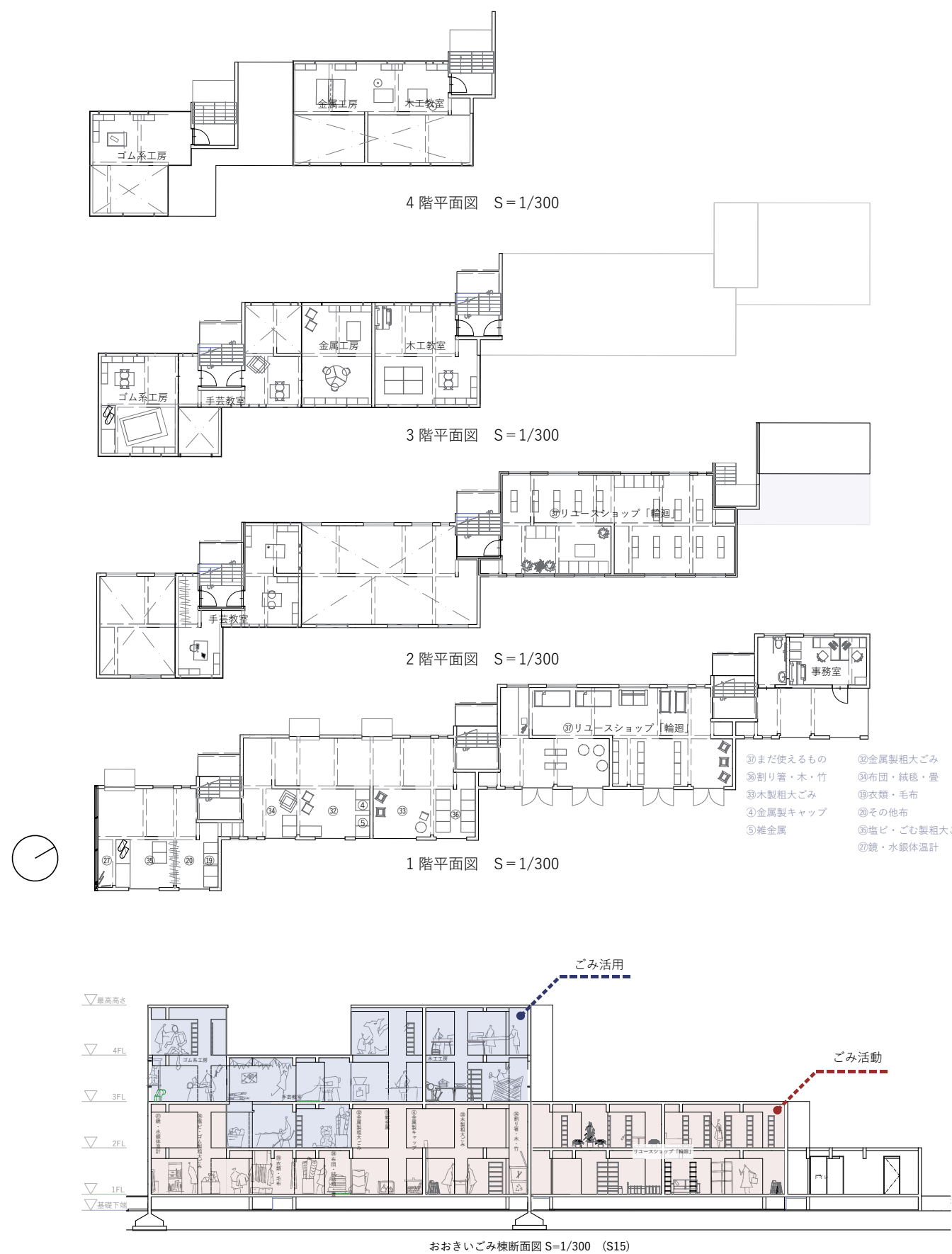


No.1

おおきいごみ棟

粗大ごみ等のおおきいごみを分別する。車からごみを運だすこと、リユースショップから車へごみを運ぶことを考慮してロータリーの横に配置。

布類ごみの上に手芸教室を配置するというように1階で分別するごみを材料とする工房を上階に配置する。団地の同じ間取りが高さ方向に連なるという特性を活かし、ごみとその工房の場所を上下で揃えることで、ごみから創作の流れに連続性を持たせる。

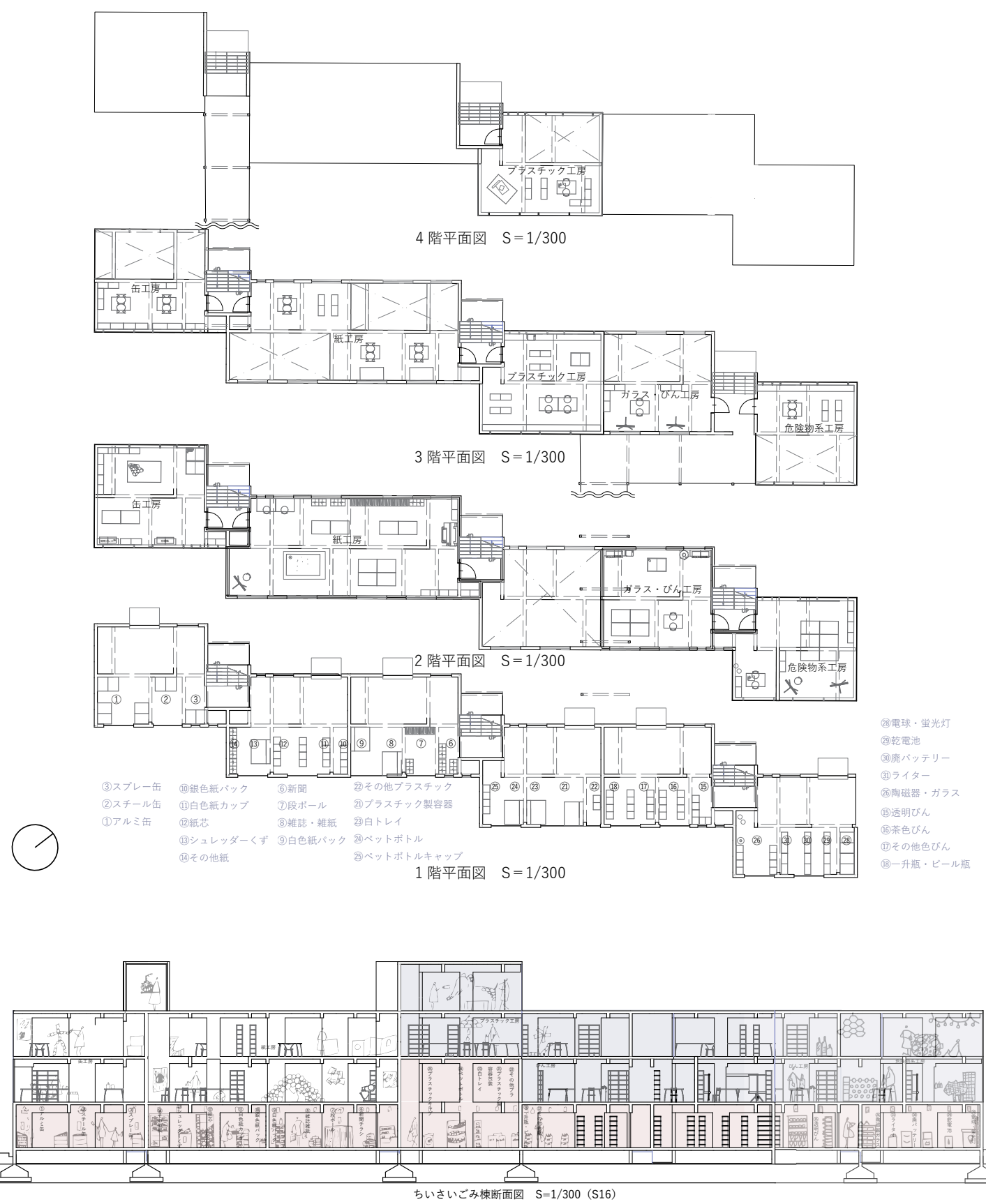


No.2

ちいさいごみ棟

比較的小さいごみを分別する。ペットボトルなど洗う必要のあるごみはアートサイクル棟にあるクリーニングルームで、洗ってから分別する。

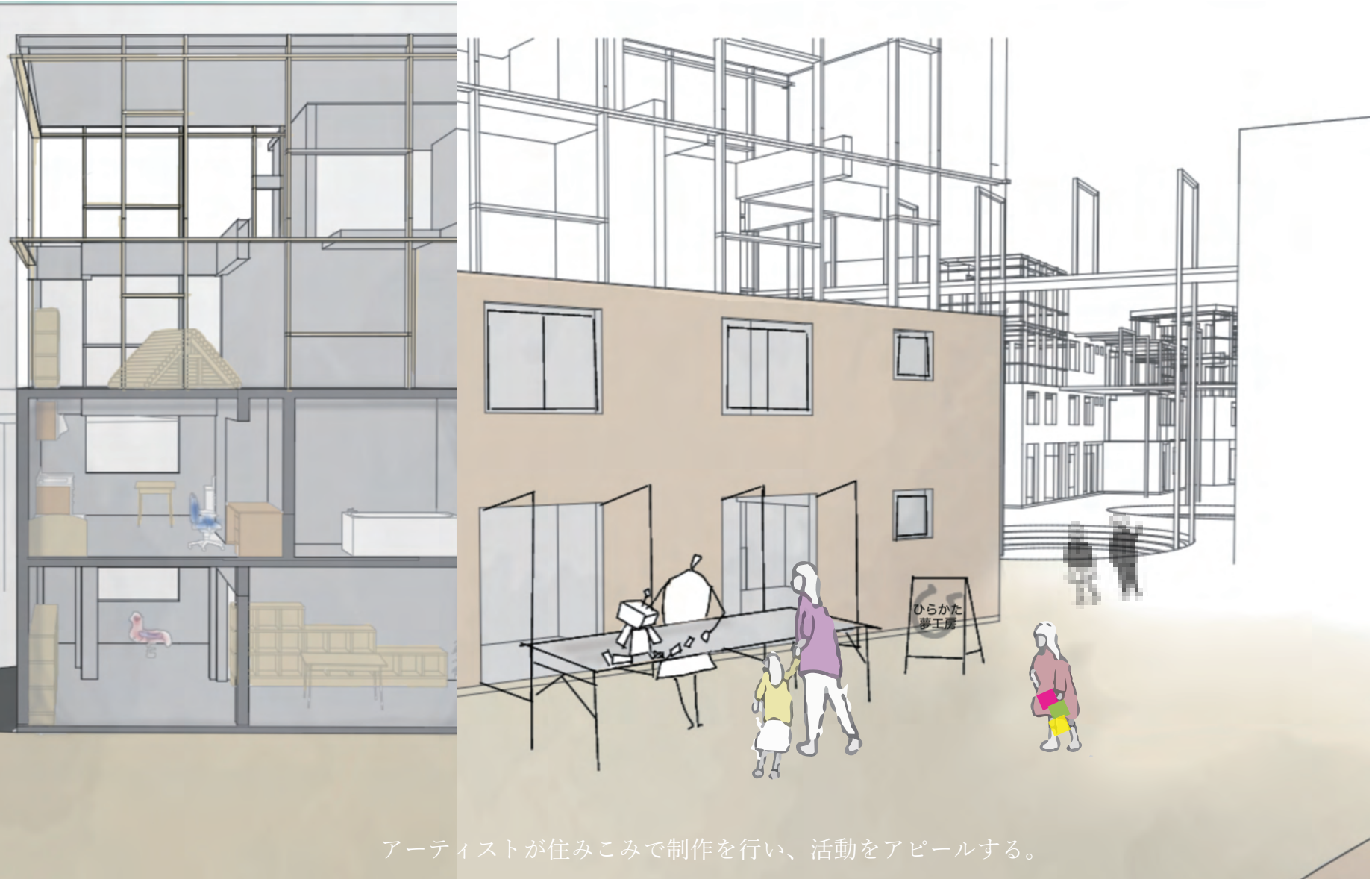
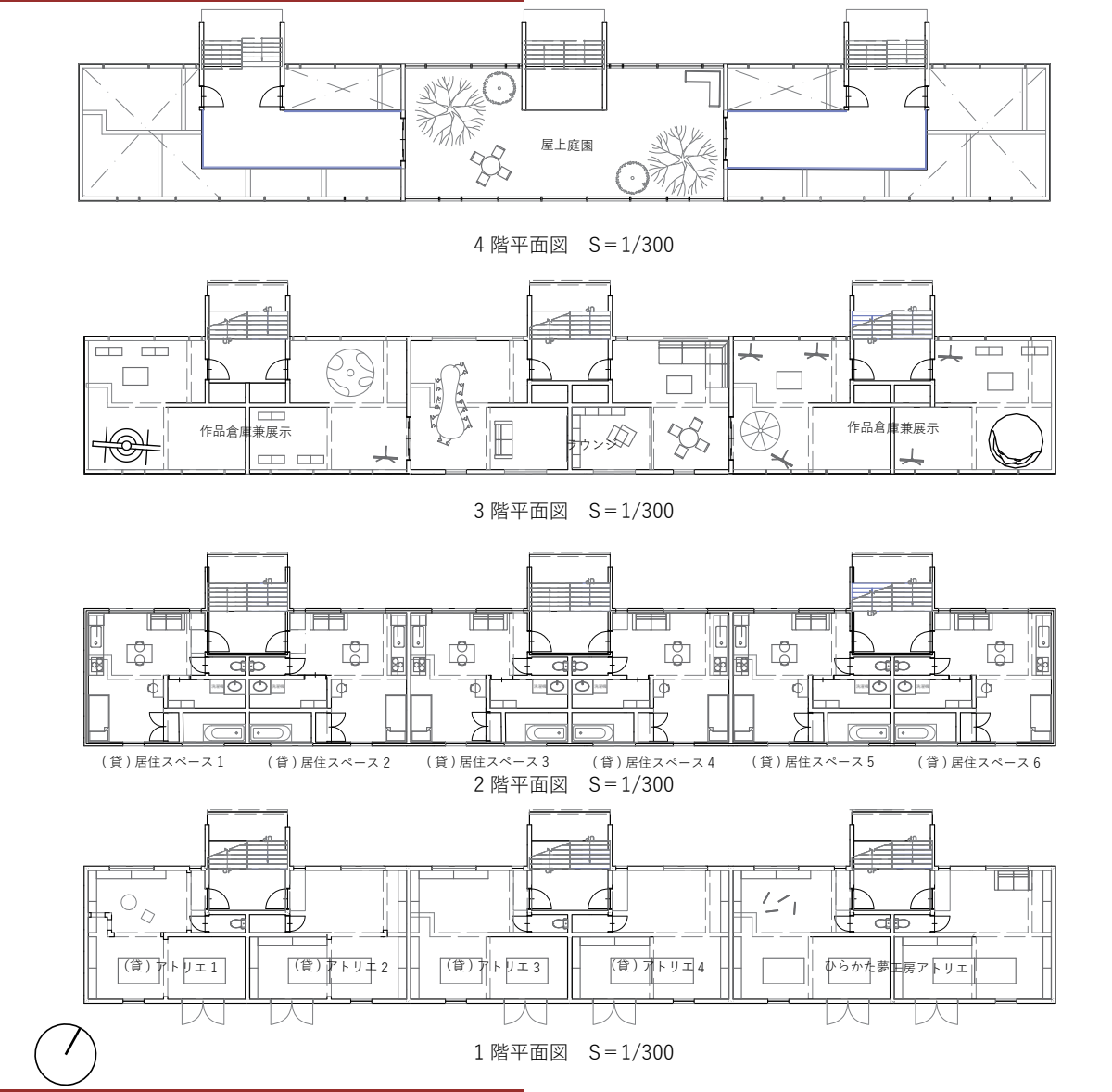
ここでも1階のごみと上階の工房で扱うごみの種類、位置を一致挿せる。プラスチック等のごみの加工には本来巨大な機械を使用するが、ここでは容易に制作可能な小型機械を使用する。



No.3

ものづく Re: 棟

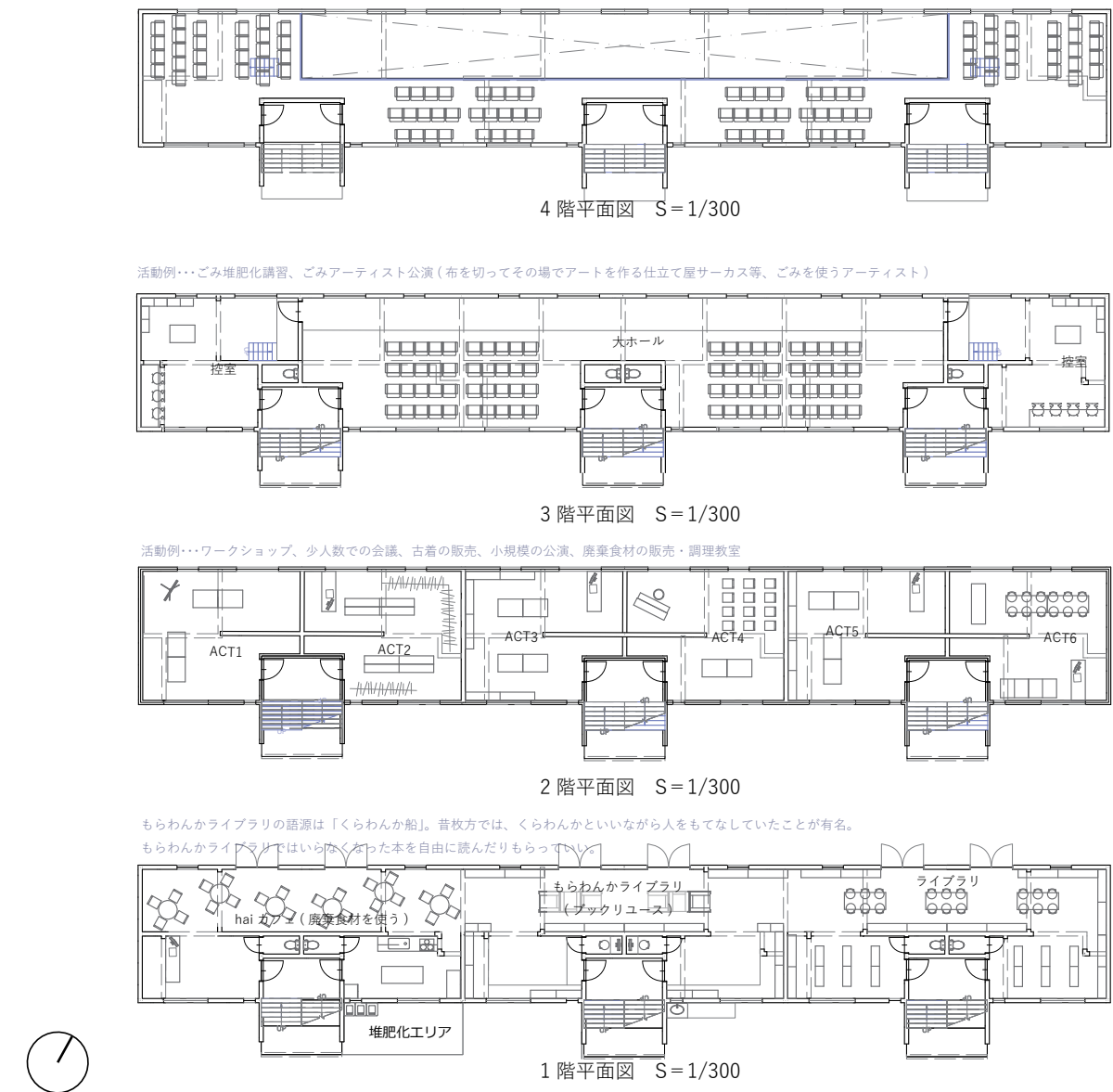
アーティストが作品製作期間中住みこみで制作活動を行う棟。2つのアトリエはこの棟の居住者が時間予約制で使うことができる。
また、これまで街の外れのクリーンセンターで日用品の修理等の活動をしていたひらかた夢工房のアトリエをこの駅前のものづく Re: 棟に移設し、多くの人に活動をアピールする機会を創出する。



No.4

まなびや棟

ごみ活についてあらゆる方法で学ぶ棟。具体的には、カフェで訳あり野菜などの廃棄食材を使用し、そのごみを堆肥化して畑の肥料にすること（コンポストガーデン）や、ブックリユースを体験すること、ごみに関する本を読むこと、ごみの講義を受けたり、ごみを使うアーティストの公演を観賞することができる。



No.5

アートサイクル棟

工房で製作した一般アートと、アーティストによるアートの展示、販売を行う。ここで展示するアートはすべてごみから作られるアップサイクルアートとする。
棟の一角にごみを分別する前に洗うクリーニングルームがあり、ごみ活の原点と終着点がこの棟で交わる。ごみを洗う際にアートが見えることでごみ活意欲の向上が期待できる。（各ごみのアートの種類については3枚目に添付のQRコードを参照）

